

出張報告

報告日 2025年8月25日

会 派 名	柏盛クラブ
報告者氏名	三宮 直人 重野 正毅
種 別	☒ 調査研究（ ☒ 行政視察） ☐ 研修会 ☐ 要請・陳情 ☐ 各種会議
用 務	鎌倉市視察
日 時	令和7年8月18日（月）14時00分～15時30分
場 所 （会場）	鎌倉市役所
調査項目等	「かまくらULTLAプログラムの取組」の調査
概 要	<鎌倉市概要：令和7年8月1日現在> ・人口169,645人、面積39.66㎢ ・三浦半島西側の付け根にあり、歴史的都市鎌倉が市域の中心にある。古都保存法の「古都」に指定されている自治体の一つである。古都保存法における指定都市でもあり、景観保護の点から土地利用に制限がかけられている。 ・年間延べ観光客数は約1,900万人。国宝・国指定文化財は216件。 ・議員数26名 <「かまくらULTLAプログラムの取組」の概要説明> 1 概要 ・森、海など鎌倉の地域特性を生かした中で、子どもたちが自分の個性や特性をつかんで、自分らしく学んでいくことを考えていくことを目的とし、探究活動を中心に行っている。 ・小学4年生から中学3年生の不登校傾向の子どもを対象にし、今年で4年目の取組になった。令和6年度の参加者は山と海の活動にそれぞれ20人ほどの参加があった。 ・学校に馴染めない子どもの特性を科学的に把握しながら、その子の個性特性に学校が合わせられる環境を整備していく。 ・認知心理学等に基づくアセスメントを行い、自分の学びの特性を可視化・言語化し、各自の個性に応じた学びができるようにしている。また、自分の特性を試す、探求プログラムとして海と森のプログラムがあり、そこでは専門家や地域の大人がナビゲーターとして子どもたちと一緒に学んでいる。

2 経緯

- ・2021年に日本財団と東京大学が行っていた異彩発掘プロジェクトロケット、いわゆるギフテッド系の子どもたちを集めてその子たちの才能を伸ばすような研究に鎌倉市の中学生男子が一人参加をしていた。その子はロケットに行き行って伸び伸びと学んで、すごく手応えを感じていた。そこで、鎌倉市長にそのロケットの自分の取り組みを紹介したところ市長は大変感銘を受け、そのような子どもたちの学ぶ場を鎌倉でも作ることをマニフェストに掲げた。そこが本当の一番のスタートだった。
- ・その後いろいろな議論があり、ギフテッドのためではなく、特に不登校の子どもで特性を生かす学びの場を作ることからこのプログラムを始めた経緯がある。

3 プログラムの特徴

- ・自分の個性特性、特に「得意分野」「認知特性」「関心領域」「思考スタイル」「好奇心スタイル」の5分野の特性、を知るためにアセスメントを実施している。タブレットにアンケート形式になっている質問事項にこたえるもの。
- ・海と山の活動内容としては、鎌倉は歴史文化に恵まれており多くの人材がいるため、その人材を活用できるコンテンツにしている。
- ・不登校支援でやっているの、子どもたちの心理的安全性を保証しながら学べる学習環境づくりにこだわっている。

4 学びの多様化学校

- ・今年度新たに分校方式で「由比ガ浜中学校」が開校した。
- ・31人の入学生のうち約3分の1がウルトラプログラムへ参加していた。
- ・ウルトラプログラムでの思想が生かされている。

<質疑>

Q1 ウルトラプログラムの成果

→不登校の改善は見られた。学びの多様化学校の思想が引き継がれた。

Q2 ウルトラプログラムの課題と今後の展望

→予算として年間500万円計上しているが、費用対効果の面で様々な意見があった。今後は不登校支援が学びの多様化学校で完結するものではないので、他の学校での指導に生かすことで、市全体の教育を変えていく。

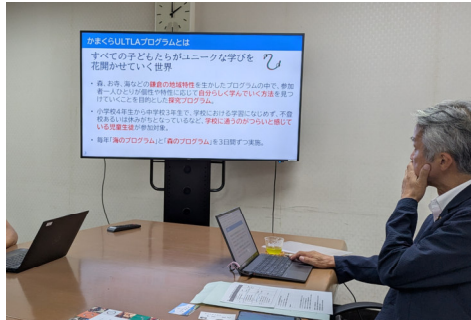
Q3 学びの多様化学校とウルトラプログラム、公的な不登校の取組の関連

→令和5年度の不登校児童生徒数は382人だった。学びの多様化学校は開校したが、ウルトラプログラム、公的な適応指導教室（ひだまり）は並行して行っている。ひだまりでも学習指導は行っている。また、民間のフリースク

ールもあり、そこに通う児童生徒へは月上限1万円の補助を出している。

Q4 アセスメントの詳細

→株式会社SPACEが開発した。ガードナーが提唱している多重知能理論にあてはめ、8分野の特性について各自の傾向を知ることができるようになっている。市内のいくつかの学校でも活用しているところもある。



所 感 等

【三宮直人】

㈱SPACEが開発した学習特性を知るアセスメントツール「SpaceQ」に興味をもった。社会人でも個々人の行動特性に合わせた円滑なコミュニケーションにするため同種のツールが使われている。個人の特性に合わせた指導が学校教育でも行われていることに賛成である。ギフテッド教育については、ギフテッドを多様性の一つとして捉え学びの多様化学校の運営に当たられていると思った。

【重野正毅】

文部科学省の「特定分野に特異な才能のある児童生徒支援事業」ということで、ギフテッド支援を公教育でどの程度取り組んでいるのかを期待していたところ、ほぼ不登校支援として、学びの多様化学校設置に向けた取組としての位置づけのような印象を受けた。かまくらウルトラプログラムのスタートは東京大学と民間で行った2021年のロケットという異才発掘プロジェクトに一人の中学生が参加し、その報告を市長にしたことに端を発している。市長の思いとやや異なり不登校支援に傾倒していったが、ウルトラプログラムはこのようにトップの思いがあったからこそ今につながっているのだとも感じた。ギフテッドの対する私見を話して下さったが、公教育での様々な縛りの中では難しいこと、教員としてギフテッドの子を見ようとする感覚が薄いことなど課題が多く、踏み出せない現状とのことだった。また、このプログラムの中にアセスメントとして各自の特性や認知スタイルなどを知ることを行っている。自分の取扱説明書を知ることができた、という子どももいるように、自己理解の一

	助として柏崎でも取り入れられることかもしれない。議員として、不登校児とともにギフテッド児に対しても一人一人に寄り添い、それぞれ個に応じた指導が適切に行える環境整備を柏崎市でも行えるように、働きかけていきたい。
--	--

出張報告

報告日 2025年8月25日

会 派 名	柏盛クラブ
報告者氏名	三宮 直人 重野 正毅
種 別	☒ 調査研究 (☒ 行政視察) ☐ 研修会 ☐ 要請・陳情 ☐ 各種会議
用 務	御殿場市視察
日 時	令和7年8月19日(火) 10時00分～11時50分
場 所 (会場)	御殿場市役所
調査項目等	御殿場市SDGs未来都市計画の推進～御殿場市エコガーデンシティ構想～
概 要	<御殿場市概要：2020年国勢調査> ・人口86,614人、面積194.90km² ・世界文化遺産富士山の麓にある高原都市。首都圏から80Km 県内で交通至便。農林業、工業、商業がバランスよくあり。 ・年間延べ観光客数は約1,500万人 宿泊110万人 ・議員数21名 <御殿場市SDGs未来都市計画の推進について> 1 概要 ① 本のSDGsの取り組み方、地方創生SDGsの必要性、SDGs未来都市の概要説明 ② 御殿場市SDGs未来都市計画の概要 ・令和4年10月策定、令和7年までの4か年計画。 ・コロナ対策、人口の維持増加、雇用の確保、自然環境の保全、先端技術の活用、農林業の展開、福祉の推進、市民協働、質の高い教育災害対応など10の課題を設定。 ・SDGs3分野(経済・社会・環境)で重要業績評価指標(KPI)を設定し、推進に向けた具体的な取組として3つの取組を掲げ、それぞれにKPIを設定。 ・SDGs3分野の相乗効果を高めるため3分野の統合的取組として「木育」を設定。環境分野に副題にあるエコガーデンシティ構想がある。

<エコガーデンシティ構想について>

1 概要

- ① 目的は、世界遺産富士山の麓にふさわしい、優れた環境と景観形成と産業・経済振興が好循環するまちの実現。SDGｓ未来都市の先行事業で後に御殿場市SDGｓ未来都市計画に統合。
- ② 10の初期リーディングプロジェクト
 - ・箱根山系の保全と活用（富士山ビューの活用）、富士山桜いっぱいまちづくり、家・庭・コモンスペースの創造、ハイブリッド車用電池リサイクル、バイオマス利活用、スマートファシリティ、マイクロ水力発電、御殿場エコファーム、ドローンの活用、水素ステーションの活用。
- ③ 新たな主要プロジェクト
 - ・脱炭素の見える化、地域通貨による経済活性化、木育推進による関連産業の活性化、多様な農業生産による農地の活用。

<質疑>

Q1 エコガーデンシティ構想からSDGｓ未来都市構想への流れは

→平成29年度に環境と経済に重きを置いたエコガーデンシティ構想を開始した。これをSDGｓ未来都市計画に取込み発展させた。

Q2 エコガーデンシティ構想に取組んだ経緯は

→エコガーデンシティ以前に市内藤岡地区で森林を活用する取組（間伐や間伐材の利用など）が地域限定に行われ成果があるので全市に広げたのがエコガーデンシティ構想。

Q3 御殿場市の強みは

→市の面積の56%が森林だが林業は衰退してきた。豊かな自然現象を活用して環境と経済を繋げられないかとしたのが「木育」。森林は観光や子育て資源であり、「富士山のもり 木のおもちゃ美術館」を建設中。木に触れることで「木育」を体験してもらいたい。また現在「富士山の森の産業化」として道の駅を令和30年度開業に向けて計画中であり特に農業の活性化がねらいである。環境の取組みからSDGｓの取組みと理解する事業者が増えてきた。また「だれ一人取り残さない」の観点では身体に障がいある方々も参加しやすいイベントを企業・団体から考えてもらいSDGｓの考え方が広がっている。

Q4 宅地分譲地の位置や場所の目玉、ターゲット層は

→場所は「富士山のもり 木のおもちゃ美術館」が整備される場所の地区で過疎地区、市街地調整地区。優先1は市外の子育て世代、2は市内の子育て世代。移住者の半分以上が市外、地区外の方。

Q5 SDG s 未来都市に進もうと方向付けしたのは戦略部門か市長か議会か
→先行していた藤岡地区の成果をもってトップダウン的に方向づけがなされた。

Q6 脱炭素の見える化プロジェクトは実証事業を終了したが、排出量削減の
取組みは継続しているか
→家庭でのE Vや太陽光発電の利用などに補助を行っている。

Q7 木育の子どもたちへの意識づけ、教育活動への反映は
→おもちゃ美術館建設地の伐採現場を見学してもらったり伐採した木が将来、
木のおもちゃ美術館で使われることを通して子ども目線で木の重要性をス
トーリー性をもって伝えている。お子さんが生まれた家庭には足の本型の提
供、小中学校には植林体験、授業の中で木育のカリキュラムを行うなどの教
育活動を行っている。



所 感 等

【三宮直人】

全体としては、藤岡地区の自主的な森林活用の取組みで成果を出し、その成果をもって環境と経済の視点によるエコガーデンシティ構想を全市的な取組に育て、更には社会の視点を加えたSDG s 未来都市計画に発展させる見事なストーリー展開であった。小さく生んで大きく育てる方法である。人口減少が進展する中でこの展開方法は、取組みを根付かせる意味において柏崎市においても必要と考える。

個別には、今ある資産を活用する富士山ビューの取組みは参考になる。ランドマークとしての富士山には遠く及ばないが、柏崎市には歴史と文化を持つ刈羽三山がある、御殿場にはない海という財産がある。海と刈羽三山の組合せで他に無い柏崎らしさを創り発信できるのではないかな。また、木育の取組みについても今ある資産の活用の意味から言えば同様である。何に取組むにせよ、環境、経済、社会の3側面の相乗効果を生み出すことの必要性を改めて強く認識した視察となった。

【重野正毅】

担当者のSDGs未来都市計画エコガーデンシティ構想に対する思い、熱意が伝わる説明だった。柏崎市議会では平成31年2月定例会議で初めて質問されたことで、それ以降市の計画などの中にSDGsのロゴが記されたりしているものの、その考え方がどれだけ庁内であるいは市民に十分に周知されているかはやや疑問に思う。御殿場市ではエコガーデンの取組を進め、それをSDGs推進へと組み込んでいき、さらに充実されたとのこと。また、様々な取組に挑み、事業化されたもの、断念したものもあるが、検証しながら着実に市民の福祉の増進に努める姿勢は素晴らしいと感じた。これからも柏崎市のSDGsの取組が少しでも進められるよう、当局に働きかけていきたいと思った。